

ティンクルなごや通信

院長あいさつ	1
2016年春・夏・秋 ～ティンクルなごやの暮らし～	2-3
短期入所について	4
ティンクルなごやのリハビリテーション	5
ボランティア紹介 アロママッサージボランティア	6

名古屋市重症心身障害児者施設
ティンクルなごや
指定管理者 社会福祉法人 むつみ福祉会
名古屋市北区平手町1丁目1番地の5
TEL:052-916-0333

第 **1** 号
2017年1月

「ティンクルなごや通信」 第1号発行にあたって

院長 二村眞秀

■開設までの道のり

これまで、名古屋市には旧政令指定都市の中では唯一、市立の重症心身障害児者施設がなく、障がい児、障がい者の保護者の皆さんからは施設設置の要望が寄せられてきました。そして平成22年、名古屋市重症心身障害児者施設の設置が決定され、平成25年12月から建設工事が始まりました。平成26年度は開設準備室を設置し、予定通り平成27年4月開設、5月から入所者の受け入れが始まり、現在に至っております。

■施設の運営

ティンクルなごやは、「全国重症心身障害児者を守る会」愛知県支部を母体とした社会福祉法人むつみ福祉会が名古屋市から指定管理者の指名を受けて運営にあたっています。

「守る会」では「もっとも弱いものをひとりももれなく守る」ということを大切な理念として掲げており、私たちもその理念を日々の医療、療育の大切なよりどころとしております。

■これまでの現状を踏まえて

名古屋市にはこれまで、市立のこのような施設



がなかったため、多くの障がい児、障がい者の皆さんが在宅生活を余儀なくされた面も多々あったことと思います。新しい施設はショートステイの方も含めて、最大90名の方にご利用いただけますが、市内にはまだまだ多くの在宅生活中の方がおいでになり、すべての方の入所のご要望にお応えすることはできません。しかし、必要な方が必要な時に利用していただけるように、施設運営をはかって参ります。

この「ティンクルなごや通信」では施設の様子を皆さんに定期的にお知らせして参ります。この施設を少しでも身近に感じていただければ幸いです。

ティンクルなごやは、在宅での生活が困難な重症心身障害児者（重度の知的障害、重度の肢体不自由が重複している方）が入所する施設です。ご家族等によるケアが一時的にできなくなった場合に利用できる短期入所（ショートステイ）も行っています。



2016年 春・夏・秋 ～ティンクルなごやの暮らし～

ティンクルなごやの隣には、緑豊かな志賀公園があります。施設からの眺めも良いですが、春には、満開の桜の木の下に行って、みんなでお花見もしました。

施設の1階には、たくさんの方が集える交流ホールがあります。素敵なコンサートを開催していただき、みんなで楽しく音楽を聴いたり、大好きな歌を歌ったりする日もありました。

交流ホールの前には、芝生が広がる「ウエルネスガーデン」があり、お天気の良い日はお散歩を楽しむこともできます。

利用者さんが生活する各フロアでも、一人ひとりが安心して過ごせるよう、健康状態に気をつけながら、日々療育の時間を設け、ご家族もスタッフも一緒に触れ合う時間を大切にしています。屋上庭園では野菜の栽培や収穫、水遊びを楽しむ日もありました。音楽療法、お誕生日会、季節にあわせた行事など、にぎやかに過ごす時間もあり、穏やかにリラックスする時間もあり…そんな毎日を過ごしています。

ティンクル春祭り

5月、ティンクルなごやが開設されてから1年が経ち、ウエルネスガーデンで「春祭り」を開催しました。楽しい演奏でにぎやかにスタート。名古屋音楽大学、名古屋学芸大学のみなさんに盛り上げていただきました。利用者さんのご家族にも、綿菓子などのお店を出していただき、普段施設内で食事を作っている厨房メンバー、ボランティア、地元の市民団体の方も参加して、いろいろな模擬店や体験コーナーが並びました。利用者さんの手形・足形で作ったモニュメントも展示しました。

記念に、利用者さんたちも一緒に、色とりどりの風船を空へ飛ばしました。晴れた空に、風船が舞い上がり、心に残る瞬間でした。最後には素敵なバルーンアートを披露していただき、みんなが思い思いに記念撮影をしました。地域の方も参加してください、たくさんの笑顔が見られる楽しい春祭りになりました。

永池利恵（3階東 生活支援員）



夏祭り

8月、3階西のカシオペアとオリオンのフロアで、夏祭りを行いました。

甚平や浴衣を着て参加する方もいて、お祭り開始前からワクワクです。

普段は、療育の時間を午後2時から1時間程度設けていますが、この日は普段と違った生活のリズムです。午前は魚釣り、ボーリング、射的を楽しみました。一人ひとりにあわせて釣竿やボール、レーン作りなども工夫し、お魚が釣れたり、ボールが転がるたびに歓声があがりました。かき氷も食べ、「冷たいかな」「おいしいかな」と、ご家族もスタッフも利用者さんの表情をのぞきこんでは、笑顔になりました。

午後は交流ホールに会場を移し、2階や3階東フロアのメンバーも集まり、お手製のティンクルみこしを囲んで、盆踊りをしました。にぎやかな一日を過ごすことができました。

田尻夕璃（3階西 生活支援員）

運動会

スポーツの秋です。

2階フロアでは、スピカ、シリウスのユニットごとにチームを組み、運動会を開催しました。

普段は仲良く一緒に療育活動を楽しみますが、この日は、互いにピンク、ブルーのはちまきを締めて、対戦方式で行いました。

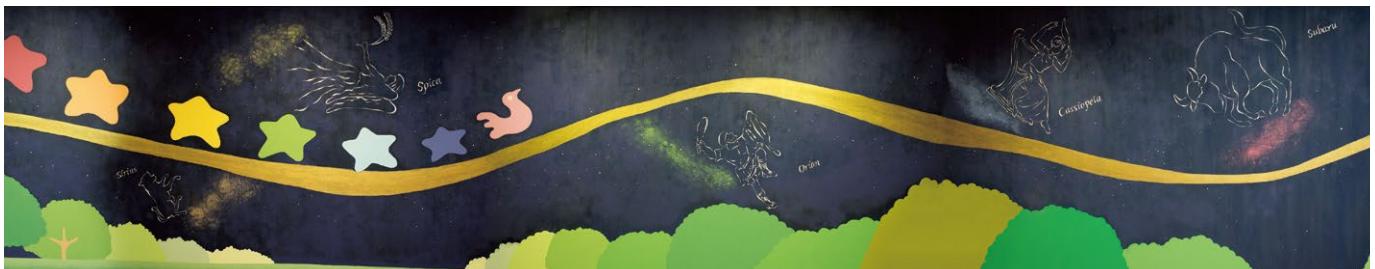
当日は、ご家族の方の参加も多くみられ、それぞれの競技にも一緒に参加をしていただきました。

ほとんどの利用者さんは言葉を発することが難しかったり、自分でうまく体を動かすことができませんが、ご家族、スタッフが言葉をかけ、手を添えてともに取り組み、ボール回しや、お玉でボールをすくって回すリレーなど、とても白熱した戦いとなりました。

利用者さん、ご家族、スタッフと笑顔があふれる楽しい会となりました。

林ゆかり（2階 看護師）

ティンクルなごやには、2階、3階東・西に利用者さんが生活するフロアがあります。各フロアは、2つのユニットにわかれていて、星や星座の愛称がついています。2階にはスピカ・シリウス、3階東にはスバル・ペガサス、3階西にはカシオペア・オリオンというユニットがあります。（下の写真は名古屋市立大学芸術工学部のみなさんによるホスピタルアートです。施設2階の壁面に描かれています。）



短期入所 について

在宅で、重症心身障害児者のケアをされている家族が一時的にケアができなくなった時に利用できる障害福祉サービスです。

病気や冠婚葬祭など差し迫ったものから休養やきょうだい行事、旅行といったものまで利用の理由はさまざまです。

利用者さんのエピソード

～このような形でご利用いただいています～

■ Aさんは、他の施設でも短期入所を利用したこともなかったので、ティンクルの短期入所を利用した初めの頃は夜も眠れずに、コロコロ転がったり、気持ちを落ち着けるために持ってきていたビニール袋を触って、カサカサという音を聞いて一晩中すごしていました。

スタッフもそんなAさんに戸惑い、どうなるかなと思っていましたが、月に1回くらいずつ利用するうちに、スタッフや他の利用者さん、ティンクルの雰囲気慣れてこられたのか、Aさんの落ち着いた表情が見られるようになってきました。

まだ、夜眠るのは瞬間的で、まとまって眠ることはありません。でも、ご家族もスタッフも、安心して預かる、預けられるようになってきたと思っていますところ。

ご家族から「(預けて) ゆっくり眠れるようになりました。」という声を聞いた時には、わずかかもしれませんが、ご家族の生活を支えるという役割を果たしているのかなと思っています。

■ Bさんは、緊張が強くて、食事のとり方に工夫がいる方です。飲み込みが上手にいくように食事の形態も変えてみたり、いま通っている生活介護の施設にスタッフが訪問させてもらい、食事の様子を見せてもらったりしました。その情報をティンクル内で伝達、共有し、工夫をしました。

ちょっとしたやり取りのできるBさんにも、食べる時にYES/NOの返事をしてもらうことで、Bさんのペースを大切に、スタッフの介助に安心してもらうように心がけました。

1泊2日を繰り返し、今では、2泊3日の利用もできるようになりました。

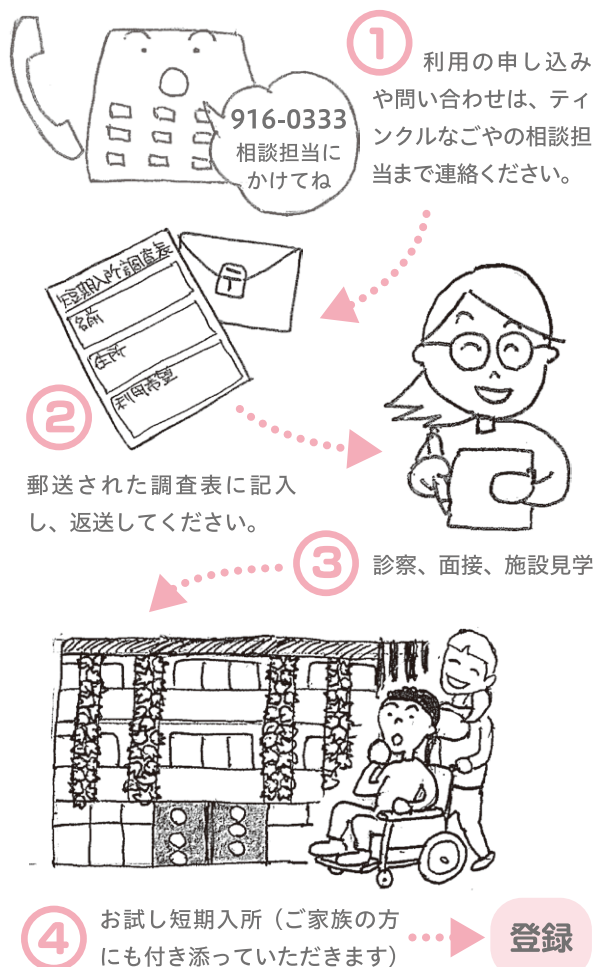
きっと、もう少し長い短期入所利用ができる日も近いなと思えます。

■利用対象者

市内在住の重症心身障害児者（愛護手帳1,2度、身体障害者手帳（体幹、下肢）1,2級を所持されており、歩行ができない方）

- ・ 年齢が小さい場合（おおむね2歳から）は児童相談所から重症心身障害児者として認定を受けた方も利用可能です。
- ・ 利用にあたっては、障害福祉サービス受給者証を「短期入所重心児」または「短期入所療養介護」で手続きしていただく必要があります。

■利用登録までの流れ



山口徳郎・宮崎あき恵・入蔵敦子（相談担当）

ティンクルなごやのリハビリテーション

現在リハビリテーション部門は、理学療法士1名、作業療法士1名、言語聴覚士1名で利用者さんの生活を支援しています。

主に姿勢・運動発達・呼吸に関わる理学療法では、骨の変形・脊柱側弯・拘縮の進行予防、楽に呼吸ができるように呼吸機能の安定を目標に行っています。

日常生活動作や余暇活動、遊びなどに関わる作業療法では、それぞれの活動に応じた姿勢の検討や感覚刺激を用いた活動、一人一人が楽しめる遊びの支援などを行っています。

コミュニケーションや摂食嚥下機能に関わる言語聴覚療法では、安全に食べるための支援や絵本

やスキンシップを介したコミュニケーションの支援を行っています。

リハビリは生活の場所である居室やダイニング、機能訓練室、様々な感覚刺激（視覚・聴覚・触覚など）を楽しめるスヌーズレン室などで行っています。

今後は個別的な関わりの他に、集団的な関わりを少しずつ増やしていけたらと考えています。

「スヌーズレン」とは、光、音、におい、振動、温度、触覚などの心地よい刺激の中で、自由に探索したり、くつろぐことによって、重い障害のある人も楽しめる活動です。



実際のリハビリ場面についてご紹介します。

Aさんは、言語聴覚士が「絵本を読みましょうか？」と声をかけると、いつも手に持っているお気に入りの毛糸を脇に置き、期待に満ちた表情で訓練が始まるのを待ちます。目の前に、Aさんにも色や数などがわかりやすいような絵本を何冊か並べると読みたい絵本を指さして選び、自分でページをめくります。

終始、笑顔や声がよく出る他、言語聴覚士がストーリーにあわせてジェスチャーをするのを真似したり、知っているものを指さして知らせるなど、絵本を楽しんでいるように見えます。

そこで、余暇活動の一環として作業療法士とともに地元の図書館に行きました。取りやすい位置にある気に入った本を自分で抜き取り、選ぶという活動も行ってみました。

このようにリハビリでは利用者さん一人ひとりのできることや興味、発達段階に応じた場と時間にしていきたいと考えています。

ティンクルなごやに入所されている方々は、体の動きが限られ、コミュニケーションが難しく、できる活動・社会参加が限られる方々です。リハビリテーションとは、もともと「人間性の復権」を意味するもので、いわゆる「機能訓練」だけを意味するものではありません。機能障害・活動制限・参加制約という3つの次元に関わる個人のQOL(生命の質、生活の質、人生の質)を高めようとする専門分野です。

利用者さんの生活がより豊かで彩りのあるものになるように、工夫していきたいと思っています。

柄崎小麻紀（作業療法士）

ボランティア紹介

アロママッサージボランティア
「re.born by フィトラボ」

フィトラボの代表・松本イズミさんをお願いして、利用者さんにアロママッサージをしていただいています。ティンクルなごやにとっては、第1号のボランティアグループです。松本さんは、植物の良さや活用方法の講義、商品プロデュースなども行われており、幅広く活躍されています。以前からティンクルなごや周辺のまちづくり活動に参加されていたことがきっかけで、この施設でのアロママッサージのご提案をいただきました。開設直後から毎月1回、ボランティアのお仲間を募って足を運んでくださっています。

そこで松本さんにお話を伺いました。「アロマセラピーの研究は様々報告されています。「触れる」「香る」を通してコミュニケー

ションツールとして役立つのではないかと考え、みんなが楽しめる場をすることを心掛けています。アロマセラピーはギリシャ語で植物の力で人を癒すという意味です。造園のように木を植えるだけでなく、楽しみとして、新たな仲間づくりを考えて活動しています。」

毎月来ていただいているボランティアの方は5名程度で、「一人一人の反応も分かってきて楽しんでいます」「お役に立ちたい」と言ってくれました。

利用者さんは、手や足をマッサージしてもらい気持ちよさそうです。ボランティアさんたちの楽しそうな様子に緊張もほぐれ、ウトウトしてしまいます。面会に来られているお母さんたちの手もマッサージして下さって、大変喜ばれました。新たな人と人との関係ができつつあります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

濱野好子（療育部長）



右端が松本さん



■公共交通機関でお越しの方

- 栄より／市バス栄11系統「西部医療センター」又は「志賀公園前」下車
- 名古屋駅より／市バス名駅13系統「又穂住宅東」
／市バス名駅15系統「城見通二丁目」下車

■お車でのお越しの方 「黒川」出口から約10分です。



名古屋市重症心身障害児者施設 〒462-0057
名古屋市中区平手町1丁目1番地の5
TEL: 052-916-0333
〔指定管理者〕社会福祉法人 むつみ福祉会 FAX: 052-916-0338

ホームページでも、日々の生活の様子や職員メッセージを配信しています。ぜひご覧ください。

<http://twinkle-nagoya.com>

